

南海トラフ地震が起きたら、

災害から身を守るための鍵はあなた自身の手に

防災の日とは

1923年に関東大震災が起こった9月1日は「防災の日」、8月30日～9月5日は「防災週間」とされています。この機会に今一度、防災に対する意識を高め、まずはできることから取り組みましょう。



愛知県では、2024～2025年度にかけて南海トラフ地震の被害予測調査を行いました。

今回の調査では、元となるデータの見直しや評価手法の変更が行われています。そのため、前回調査と単純に比較して「本市の被害の規模が拡大した」と断定することはできません。しかし、みなさんの防災意識を高めるきっかけにつながればとの思いから、調査結果の一部を紹介します。

調査結果(本市の被害想定)

※過去地震最大モデルでの被害想定

最大震度		2014年調査結果	2026年調査結果
6強			6弱
全壊・焼失棟数	揺れ	約70棟	約60棟
	火災	約10棟	5棟未満
上下水道	発災から1日後の上水道断水人口	約29,000人	約48,000人
	発災から1日後の下水道機能支障人口	約35,000人	約45,000人
避難者数	発災から1日後(うち避難所への避難者数)	約700人(約400人)	約1,400人(約900人)
	発災から1週間後(うち避難所への避難者数)	約5,100人(約2,500人)	約5,900人(約3,000人)
	発災から1か月後(うち避難所への避難者数)	約1,800人(約500人)	約1,900人(約600人)
死者数		5人未満	5人未満

▶ 建物の倒壊や火災による被害想定は低減傾向にありますが、一方で、上下水道への被害は増加する見込みとなりました。県全体でみると、発災直後は給水人口の約94%、発災から1日後は給水人口の約83%、発災から1週間後でも約53%が断水の被害を受けると算定しています。断水被害は飲用水だけでなく、衛生環境の悪化も招きます。いま一度、自宅にある「水」の備蓄状況を見直しましょう。

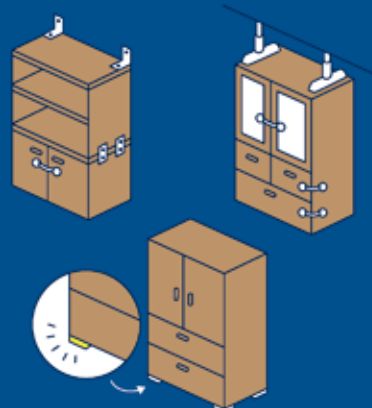
■ 安心安全課
☎56-0611

12年ぶりに県の南海トラフ地震 被害想定が見直されました

家具・家電の転倒防止対策をしましょう

愛知県が実施した2025年度の調査によると、県内における家具等の転倒防止対策実施率は56.4%でした。過半数を超えてはいるものの、まだまだ転倒防止対策が十分に実施されていません。

固定金具の設置が望ましいですが、転倒防止シートの設置や、重い物を棚の下に置いて倒れにくくする等、まずは取り組みやすいことから始めましょう。



感震ブレーカーを設置しましょう

同調査において、県内の感震ブレーカー設置率は18.5%と、多くの世帯で対策が不十分な状況です。

感震ブレーカーは、地震発生後の電気火災や、電気復旧後の通電火災を防ぐために有効な設備です。

本市では感震ブレーカー設置費用の補助も行っていますが、今年度の申請受付は終了しましたが、次年度以降にぜひご検討ください。



「備蓄」を心がけましょう

災害に備え、水や食料品、携帯トイレなど、生活必需品を日頃から備えておくことが大切です。

水や食料品は、普段から必要量より少し多めに買い置き、消費した分を新しく買い足すローリングストックがおすすめです。携帯トイレなどの防災グッズは、100円均一ショップでも見かけるようになり、以前に比べて手が届きやすくなっています。まずは無理のない範囲から備蓄を始めましょう。



災害時は「とっさに身を守る行動」がカギ！ 訓練に参加して災害に備えよう

あいち総ぐるみシェイクアウト訓練

9月1日(火)正午の時報を合図に、県内全域で①～③を各自で約1分間実施します。



市内一斉防災訓練

11月15日(日)8:30～各家庭で行う「おうちで防災訓練」を実施します。

無事であることを近所に知らせる「安否札」を掲出しましょう。

市公式LINE・安心メールでは地震や気象に関する防災情報を随時配信しています。

登録方法等詳細は市HPへ



本市は「災害の危険性は比較的小さい」と思われがちですが、たった一度の大地震でライフラインが停止し、日常生活が一変する可能性があります。いざという時に自分の身を守り、生き抜くために最も大切なのは、ほかもない「自分自身」の備えです。今日からできる防災対策にぜひ取り組みましょう！

長久手市はどのような？